宇管工と宇都宮市

技術研修センターが開所

水道事業人材の育成拠点に

宇都宮市管工事業協同組合（中村勝理事長）と市が連携整備した「市水道技術研修センター」開所式が９日、下河原１丁目の現地で開かれた。駒場洋明県上下水道課長、組合顧問の熊本和夫市議を来賓に迎え、約70人が水道事業の実技研修施設の完成を祝った。水道管の修繕作業や漏水調査、災害時応急復旧など実践的な訓練ができる。

水道管の修繕などに関する実践的な訓練場の完成を祝った

佐藤市長

中村理事長

熊本市議

駒場課長

研修センター整備は能登半島地震の災害派遣をきっかけに組合と市が官民連携で効率的・効果的に人材育成ができる実践的な研修施設を共同整備することで合意に至り、１月30日に協定を締結。整備工事は市が発注し、組合は資機材を提供した。

佐藤栄一市長は「将来にわたり安定した水道サービスを提供していくためには技術継承と人材育成が不可欠。研修センターは修繕作業や漏水調査、災害時対応など実践的な研修ができる施設であり、官民連携で技術力が向上できる人材育成の拠点」と力を込めた。

中村理事長は「安全で安心な水道を将来にわたり守り続けるためには設備の充実だけでなく、支える人の育成が何よりも大切。若い技術者の育成はもちろん、経験豊富な技術者のさらなる技術向上や技能継承の拠点として大いに活用され、水道事業を支える人材が数多く育っていくことを期待している」と語った。

駒場課長は「市水道事業は技術的な共有や広域的な連携推進など、県内水道事業の発展を牽引する重要な役割を担っている。実践的な研修を通じて水道技術が向上し、事業者間の連携強化や災害対応力に大きく貢献すると期待している」と祝辞。

熊本市議は「市が持つノウハウや責任、民間が持つ高度な施工技術が掛け合って地域全体のインフラ、水のサプライチェーンが維持拡大していく戦略的な施設となっていくことを祈念する」と話した。

中村理事長、佐藤市長、大竹信久市上下水道事業管理者、駒場課長、熊本市議、共同受注委員長で水道施設部会長の熊谷圭司理事、水道施設部会副部会長の西浦徹理事、研修作業協力の内山久氏らが出席。

漏水調査のデモンストレーション

組合からは柿沼操副理事長が研修センター概要説明後、研修デモンストレーションが行われた。

資材・カットモデル提供は渡辺パイプ、クボタ、クボタケミックス、キッツエスジーエス、前澤給装工業、コスモ工機、大成機工、日之出水道機器、トミス、水研、岡本、川西水道機器、フジテコム。

敷地北西側の地上エリアの研修項目は洗管・エア・通水、サドル分水栓取り付け、袋ジョイント取り付け。水道管を地上に露出させ、管路の一部にアクリル管を使用することで通常では見えない水の流れを可視化した。

敷地東側の地上エリアの研修項目は凍結工法、HPPE融着継手施工。市主要の３種類の管を設置している。

地下エリアの研修項目は漏水調査、消火栓操作、仕切弁操作、メータ設置撤去。３路線の水道管を埋設し、６カ所の漏水箇所を設置。漏水探知機や音調棒を使用し漏水音から漏水箇所を特定する技能を習得できる。

敷地中央南側の既存倉庫内にはカットモデル資材を展示し、応急給水所としても活用。研修項目は給水車充水・操作や給水タンク設置。

研修センター整備は水道事業を担う市上下水道局職員や組合の民間事業者の技術力向上と人材育成が目的。今後は県内水道事業体に活用してもらうことも考えている。